

# 建築の

2016年12月17日(土)

午後2時～午後5時

慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎457番教室

わたしたちは、日々、無意識のうちに建築にその「マージナリア(余白)」を感じています。それをひとたび意識化することで、建築を新しい視点から捉えることができるのではないのでしょうか。そのために今一度、建築を人間の「行為論」として、また、人間の「意識の問題」として論じる、そのような論法が求められるでしょう。本研究フォーラムは、平成28年度科学研究費助成事業「大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究」(研究代表者：五十殿利治 筑波大学教授)の一貫として実施し、慶應義塾大学ゆかりの建築、さらに近現代建築へと視野を広げ、専門の異なる立場からこの問題を多角的に検討したいと思います。

# マージナリア

後藤 文子 (慶應義塾大学文学部准教授、アート・センター副所長)

〈窓辺〉考——植物写真と近代建築

新良太 (写真家)

〈建築×写真〉のポイエシス

徳永 雄太 (建築高層ミュージアム館長)

model for what——建築模型のさまざまな在り方

森山 緑 (慶應義塾大学アート・センター所員)

建築のある環境的空間——秋田県羽後町田代、里のミュージアム

松合 芙美 (慶應義塾大学アート・センター所員、元宮内庁三の丸尚蔵館研究員)

建築研究と写真——明治宮殿を中心に

主催：科学研究費基盤研究(A)  
「大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究」  
共催：慶應義塾大学アート・センター

写真撮影：新良太